県建設業協会加世田支部パト

安全意識の高揚促す

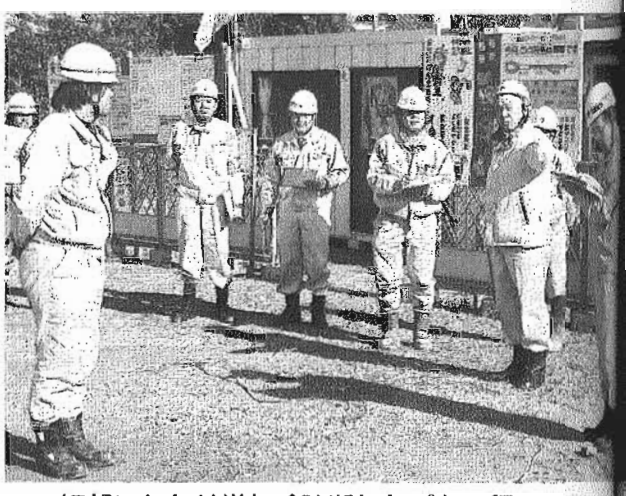
県建設業協会加世田支部（上東信義支部長）は25日、同支部労務委員と現場管理責任者らによる現場パトロールを実施。安全施工サイクルの実施状況などを中心に、細部にわたって厳しく診断した。

今回は、年度末の繁忙期を迎えるこの時期、重大な労働災害が発生しやすいことから、現場管理責任者を通じて各社の安全管理に対する意識の高揚・徹底を促すために実施した。

パトロールは、管内を3班に分け実施。このうち前田健司労務委員を班長とする1班は、南さつま市の加世田・金峰方面の5現場（㈱有木組、㈱前園建設、有元建設㈱、内野建設㈲、㈱小寺組）を担当。安全施工サイクル運動の実施状況をはじめ、三大災害防止対策、地域とのコミュニケーション運動などを柱に入念に診断した。

特に、同支部が災害防止対策として現場員への意識の高揚を図るため実施した診断に当たり各社の安全意識を高揚させる光景が見られた。

診断後、南薩建設業会館に戻って行われた反省会では、「安全日誌の記入漏れがある」など、改善の必要がある点がいくつか報告された。



細部にわたり厳しく診断したパトー行
＝南さつま市の現地で

現場の管理状況を見渡すパトー行
＝鹿児島市の現地で

西協安全パト――

安全管理呼び掛ける

西鹿児島建設業協同組合（池田安則理事長）は25日、鹿児島市の北西部区域内で工事を進めている6現場を対象にパトロールを行い、年度末の安全衛生管理の徹底を呼び掛けた。

パトロール参加者は午前8時30分の出発に合わせ、同市小野町の西協会館に集合。組合員ら36人（35社）が2班に分かれ、2台のバスでそれぞれ3現場を巡回した。

このうち、犬迫町の荒磯小山田線の道路改良工事の現場では、施工を担当する五月産業㈱の濱田昭雄現場代理人が図面などを示しながら工事内容を報告、進捗計画の88％に対して81・3％を実施したことなどを説明。このあと、ブロック積み工などを予定している同日の作業内容とともに、各安全目標を説明し現場を案内。パトロール参加者の点検を受けた後、指摘事項に耳を傾けた。

また、郡山町の中央地区松尾城線道路築造など鹿児島市発注工事の現場や、小野町中迫地区の急傾斜地崩壊対策工事など県発注の現場も点検した。

池田理事長は「管理状態を点検するとともに、参考になる点はそれぞれ自社の現場に持ち帰って生かしてほしい」と話していた。

なお同日は、夕方から新年会を開き、酒を酌み交わしながら和やかに歓談した。

南薩造園建設業協会 安全祈願祭

無事故・無災害を祈願

南薩造園建設業協会（中渡瀬八郎会長）は25日、南九州市知覧町の豊玉姫神社で20年安全祈願祭を行い、各社の家内安全と1年間の無事故・無災害を全員で祈願した。

神事では、宮司による清め祓い、祝詞奏上に引き続いて、中渡瀬会長をはじめ会員らが次々に神前に玉ぐしを捧げ、1年間の無事故・無災害を祈願した。

夕方には、さくら館に場所を移して新年会も行われた。会の冒頭、中渡瀬会長が「厳しい景況が続く中、昨年は地域においてもいろいろな出来事があったが、こうして新たな年を皆さんとともに迎えられたことをうれしく思う。依然として業界を取り巻く環境は厳しいが、さまざまな時代の変化を真摯（しんし）に受け止め、迅速に対応していくことが生き残っていくことが生き残っていれないとしてもいずれの現場もおおむね良好と診断された。

神事の後、写真に納まる会員ら
＝南九州市の豊玉姫神社で

二水会発表企業交流NW会議

新たな事業展開を

㈶かごしま産業支援センター主催の「二水会発表企業交流ネットワーク会議」が25日、鹿児島市のステーションホテルニューカゴシマで開かれ、自社の事業展開に役立てようと企業経営者ら約60人が出席した。

冒頭、吉留史郎理事長が「会議を通じて交流し、新たなビジネスチャンスにつなげてください」と挨拶。

続いて、二水会発表が販路拡大等につながったという㈱現場サポートや㈱鹿児島イーデン電気など4社が事例発表。㈱現場サポートの福留進一社長は、建設現場システム運用を支援する新ソフトウェア「現場管理館EX」をもとに、一層のステップアップを目指すとした。また、㈱鹿児島イーデンロコンピュータ㈱、アース化研㈱、八光工業㈱、㈱イシタケ、薩摩コンクリート㈱など15社による活発な意見交換も行われた。

宴の席では、杯を酌み交わしながらおのおのの一丸となって頑張っていこう」と挨拶した後、乾杯し宴会に入った。

時間を過ごしながら、互いの結束・協調とさらなる飛躍を誓い合った。

鹿女短本館棟新築

来春開校へ 大成建設で起工

志學館学園

学校法人志學館学園（志賀壽子理事長）は25日、鹿児島市高麗町で鹿児島女子短期大学本館棟新築の起工式を行い、工期内の無事完成を祈願した。工期は21年2月28日まで。同年3月までに移転作業を完了し、同年4月からの開校を目指す。設計・施工は大成建設が担当。

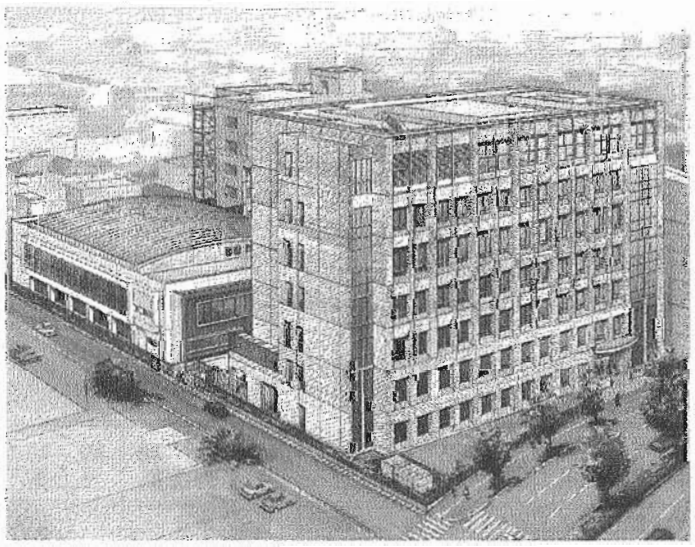
起工式には志賀理事長をはじめ、大成建設㈱九州支店の久間忠勝常勤顧問、川股早苗設計部長、岸田隆一鹿児島営業所長ら22人が出席。苅初、穿初、杭打の儀などを行い、神前に玉ぐしを捧げ工期内の無事完成を祈った。

同工事は創立100周年記念事業の一環で、鹿児島女子短期大学（同市紫原）を旧鹿児島学芸高校跡地に移転するもの。

新本館の建設地は、鹿児島市高麗町6－9（敷地面積7171・46㎡）。建物規模は、RC造7階建て7876・03㎡。内訳は1階がエントランスホール、事務局等、2階が図書館等、3階が学生ホール等、4～6階が講義室、実験室等、7階が多目的ホール等－となっている。

このほか、新体育館（RC造2階建て）新築および既存の西館（同4階建て）、南館（同6階建て）の改修なども計画しており、準備が整い次第、着工する方針。

今回の移転計画について、同学園では「時代に即応した、堅実で有為なる人間の育成－という建学の精神のもと、地域社会にさらに貢献できるよう、教育・研究活動に取り組んでいきたい」としている。



新本館の外観パース、杭打ちの儀を行う久間常勤顧問（左下）、地鎮の儀を行う川股設計部長（右下）＝鹿児島市の鹿児島女子短期大学で